

伊賀市上野西部 公民館だより



第 168 号

平成 29 年 5 月 15 日

編 集 発 行: 上野西部公民館

所 在 地: 伊賀市上野福居町

上野西部地区の人口 世帯数 1,483 人口 3,268 人(男 1,567・女 1,701) 職 29.3 末 現在

伊賀上野 NINJA フェスタ 2017 4月1日(土)~5月7日(日) 主に土日祝

桜の 4 月から初夏の 5 月ゴールデンウィークまでの土日祝、上野西部地区 周辺



市街地は、忍者衣装の観光客で賑わいました。13 か所に開設された「忍者変身処」で観光客や、ちびっ子は忍者に変身。城下町の散策しながら、地元住民の手で開設された、6 か所の「まちかど忍者道場」や、日替わりイベントで楽しみました。4 月中の観光客の出足は鈍かったものの、5 月に入ってから回復、3 日~5 日は各道場長い行列が出来るほどでした。

また、日替わりイベントでの、『伊賀線まつり』は上野市駅にて、駅構内での列車の記念撮影。鉄道模型ジオラマ、車掌、運転シミュレーション体験などが開催され、多くの観光客が詰めかけました。駅前広場では、伊賀ブランド推進協議会による、「フードマーケット」の出店。「みんなで忍にん体操」には『くノん』ちゃん登場！忍者衣装のちびっ子から大人まで皆でストレッチ体操が繰り広げられました。

4 月 23 日には春のだんじり入れ替えに合わせた、ユネスコ無形文化遺産登録記念『上野天神祭り春のお披露目』が駅前広場と駐車場で開催され、入れ替えのだんじり 6 基が横一列に並べられ、お囃子演奏。徳居町出陣式、鬼行列、七福神がだん



じりの周りを、練り歩くイベントが開催され、紅白餅の振る舞いもあり、祭町をはじめ多くの住民や見物客で賑わいました。

伊賀市消防団 辞令交付 初任者訓練

4月16日(日)平成29年度伊賀市消防団 辞令交付式 初任者訓練が、伊賀市消防



本部(伊賀市緑が丘東町920番地)で開催されました。伊賀市消防団は1団10分団39部1,470名により構成されています。上野地区を担当する、上野中分団は樽井分団長、本村、福森、北川副分団長以下121名で、第2部20名が、上野西部地区の担当です。今回、中分団第2部では部長に消防団歴8年の木村直史さん(上野向島町)が担当新団員 井上量太郎さん(上野西町)

神戸宏規さん(上野西町)が初任者辞令を受けました。交付式に引き続き、新消防団員81名が、初任者訓練を受講。講義の後、先輩団員による整然とした模範訓練見学の後、消防本部新庁舎横の屋外に整列、個々の動作確認から、団体訓練を実施、ポンプ操法訓練が行われました。今後の訓練は6月4日指導者訓練、7月23日夏季訓練が西小学校で開催されます。



スポーツ推進委員

スポーツ基本法に基づき、スポーツ推進となる、市企画のスポーツ事業への協力、地域のスポーツ実技の指導・助言を行う委員で、今年4月から2年間担当されます。上野西部地区は 増岡喜子さん 山村高士さん 多気田 雅夫さん 稲岡 豊さん 上山 素生さんです。よろしくお願ひします。

上野西部地区住民自治協議会 生活 環境保全 部会

5月2日(火)生活環境保全部会メンバーが西部公民館の花壇の手入れを行いました。同部会は毎月第一火曜日に定例会議を開催、生活排水の浄化や肥料として活用できる、マイエンザ(えひめ AI)の普及活動に取り組んでいます。当日も会議でマイエンザの培養計画や活動について協議の後、花壇の清掃、手入れを行いました。



全国山・鉾・屋台保存連合会 「南砺市城端大会」

5月4日(木) 5日(金) 『城端曳山祭』開催で賑わう富山県南砺市城端(なんとし じょうはな)にて『全国山・鉾・屋台保存会連合会総会』が



が開催されました。全国から登録を受けた団体から約450名の会員が集結。上野文化美術保存会からは八尾会長以下4名が出席しました。総会の開催に先立ちユネスコ無形文化遺産登録認定書の伝達式が行われ、宮田亮平文化庁長官から全国33件の

山・鉾・屋台行事の保存会などの代表者に認定書が手渡され、満場の拍手となりました。八尾会長は25番目に授与を受けました。続いて、平成29年度全国山・鉾・屋台保存連合会総会が行われ、主催者、富山県知事、文化庁、植木行宣連合会顧問、田中南砺市長と城端曳山祭保存会の大西正隆会長挨拶が行われ、報告事項や議事の審議は、とどこうりなく進められ、最後に平成30年度総会を埼玉県秩父市での開催を承認し、散会と



俳画サークル



なりました。また、祭屋台等製作修理技術者研修会では、富山大学芸術文化学部 林暁教授による「祭り山・鉾・屋台～城端曳山祭りにおける修理事業～」城端蒔絵塗師、小原好喬氏による「城端曳山保存修理事業～漆工」を講演されました。また城端神明宮の見学や交流会、夜は城端曳山祭宵祭の「飾り山宿」や曳山会館前で行われた獅子舞や浦安の舞、城端賛歌、庵唄保存会による庵唄を雅な庵屋台と共に鑑賞。翌朝は本祭を晴天の下、神輿に獅子舞、釵鉾、傘鉾や四神旗、庵屋台や曳山が随行する祭を堪能しました。

煌星伊賀句会

選評 大野 利江

めかり
目借時俳誌をめくる風押ふ

河口 亨

心地よき春風が来ると一段と眠気に誘われる。本のページを手で押へ、うつらうつらの己を客観的に詠まれている。

もえぎ
萌黄てふ春光の色山つつむ

天野 理江

萌黄という美しい日本の色に染まっている山、それは春光の作り出した色であると。「幸い住むと人の言う・・・」を思う。

ぼくはん
朴伴椿己が重みに落ちにけり

安屋 宣子

品格の朴伴椿が己が重みで落ちたのだが、重みという言葉により椿の花が感じられ顔を上に向けているのかまで気になる。

筆太にただいま句と桜鯛

辻野 和彦

筆太に桜鯛の旨さを。身のしまりまで思われ、句という言葉により鮮度が感じられる。今夜にでも味わってみたい。

やぶさめ
流鏑馬や瞬時の迷ひあり落馬

田畑 寛一

勇壮で見応えがある。乗り手に迷いがあれば的外れ、また落馬もしかねない。漢字止めに勢いと臨場感が感じられる。



いれずみ
刺青の縞を歪めて蜥蜴逃ぐ

とかけ
百上 進一

縞を歪めて逃げる時の走りがよく伝わる。刺青の表現にもドキッとさせられる。蜥蜴を見事に詠いきっている。

抱きし子の瞳にいつぱいの桜かな 富田 まり

抱く子の瞳に桜がいつぱいに映っている。未来がさくら色に拡がっていて、ただ今 母と子に幸せな時間が流れている。

茅門をさやさや鳴らす花あしび 谷口 恂

優雅な趣の茅門を軽やかに鳴らす花あしび。さやさやの言葉に、あしびの花が思われ揺れる様子がよく表現されている。

流れつつ変化自在の花筏 蔵本 稔恵

非常に手慣れた詠いぶりであり一句が流れるように詠われている。中七の変化自在の花筏がよく伝わってくる。

しとみど
葎戸を上げる草庵著莪明り 平野 淑子

芭蕉生家であろうか、葎戸を上げると急に明るくなった。それは庭の著莪明りのせいであろうと。明暗のめりはりのお句。